

立正大学博物館年報

17

平成 30（2018）年度

立正大学博物館

序

立正大学博物館は、立正大学を紹介する総合博物館としての役割と、仏教考古学の学術的な研究の可能性を発信する専門博物館としての両面をもっている。

今年度は大学を紹介する展示として、第13回企画展「沙漠に生きる - 化石と石と砂 -」を、2018年10月29日（月）から2018年12月17日（月）まで開催した。この展示は、地球環境科学部開設20周年を記念するもので、資料整理から展示まで高村弘毅元立正大学学長の全面的な指導の下におこなった。人文科学中心の当館としては珍しく、自然科学の成果を紹介することができたことは、館の可能性を広げるものといえよう。

また、第13回特別展「礫石経」は、仏教考古学の研究成果を示すもので、2019年2月22日（金）から2019年3月28日（木）まで開催した。礫石経の研究は、立正大学における考古学教育の発端を拓いた石田茂作講師に始まり、その弟子で長年立正大学に出講した三宅敏之講師、さらには立正大学の考古学の基礎を築いた坂詰秀一元学長が専心取り組んできた課題であり、当館で特別展を開催できたことは誠に幸運であった。これも偏に礫石経をご寄贈・ご寄託いただいた熊野譲氏のおかげである。記して謝意を表したい。

立正大学博物館は、熊谷キャンパスの一隅にある小さな博物館であるが、梵鐘や考古資料をはじめ多くの資料を保管しており、その十全な活用が期待されるところであるが、必ずしも所期の目的を達成できているとはいえない。とりわけ、基礎的な資料整理が終わっていないことは、博物館として不十分極まりないのであるが、日夜こつこつと精進する以外に解決手段はない。残された課題はあまりにも多い。

平成31年4月

立正大学博物館
館長 時枝 務

目次

序 / 目次

I . 博物館の概要	2
(1) 組織と職員	
(2) 立正大学組織表	
(3) 立正大学博物館規定	
(4) 立正大学博物館細則	
(5) 施設	
II . 事業報告	6
(1) 開館日数・入館者数	
(2) 出版	
(3) 資料活用	
(4) 展示	
(5) 教育普及	
(6) 収蔵品修復事業報告	
III . 受贈図書目録	12

I. 博物館の概要

(1) 組織と職員

a. 職員

館長 時枝 務
専門職員 吉水美紗登
事務嘱託 浅見幹雄

第4号委員

松村洋平（産業経営研究所長・経営学部教授）

梅澤啓一（社会福祉研究所長・社会福祉学部教授）

第5号委員

安田治樹（博物館関係学識経験者・仏教学部教授）

第6号委員

石山秀和（文化史関係学識経験者・文学部准教授）

第7号委員

須田知樹
（自然誌関係学識経験者・地球環境科学部教授）

b. 運営委員

第1号委員

時枝 務（博物館長・文学部教授）

第2号委員

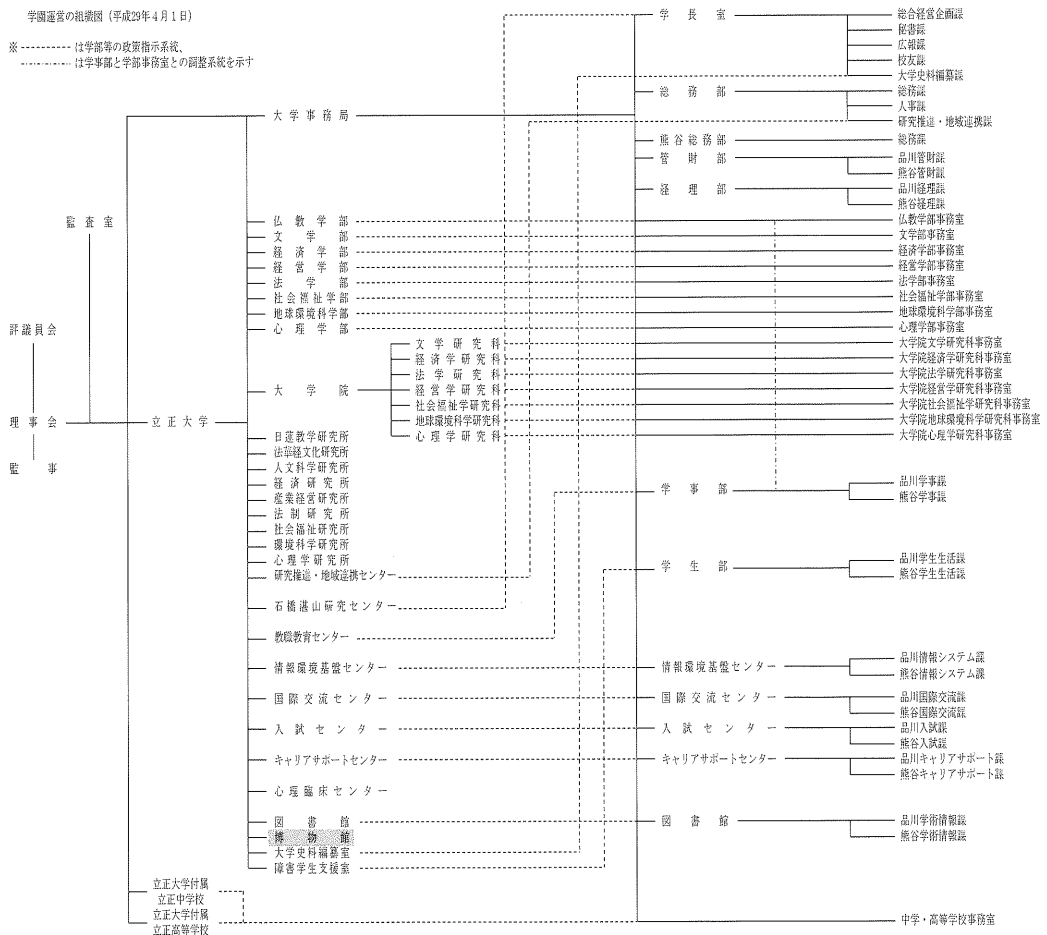
吉水美紗登（専門職員・非常勤嘱託）

第3号委員

清水海隆（社会福祉学部長・社会福祉学部教授）

川野良信（地球環境科学部長・地球環境科学部教授）

(2) 立正大学組織表



(3) 立正大学博物館規定

(趣旨)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」(以下「博物館」という。)を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料(以下「資料等」という。)を収集・保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、整理および保管
- (2) 資料等の展示および公開
- (3) 調査研究活動
- (4) 調査研究成果の発表および出版
- (5) 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- (6) 講演会、講習会および特別展示会の開催
- (7) その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を統括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。
- 5 館長が欠けたときは補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は館長の推薦を受け、学長が任命する。
- 3 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、該当者がいない場合は博物館学芸員に相当するものとする。
- 4 専門職員の任期は3年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者をもって構成し、学長が委嘱する。

- (1) 館長
 - (2) 専門職員
 - (3) 学部長から2名
 - (4) 研究所長から2名
 - (5) 博物館学芸員関係学識経験者から1名
 - (6) 考古学および文化史関係学識経験者から1名
 - (7) 自然誌関係学識経験者から1名
- 2 館長の推薦により、前項に定める委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。なお、学識経験者委員の委嘱は学長が行う。
- 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第1項第3号乃至第6号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が招集し、議長となる。

2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- (1) 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- (2) 博物館の管理運営に関する事項
- (3) 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項
- (4) 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項
- (5) 博物館の予算・決算に関する事項
- (6) その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経て、学長が決定する。

2 前項に規定するもののほか、この規程の改廃の最終決定は、立正大学学園規約類の制定に関する規程第6条の規定による。

附 則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

平成28年2月24日改正、平成28年4月1日施行

(4) 立正大学博物館細則

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は所定の手続をとらなければならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作等の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式1）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 資料の所蔵者および寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を館内利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。
(1) 利用に際しては博物館の専門職員の指示に従うこと。

(2) 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

(3) 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

(4) 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式2）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

(5) 第1項による利用許可を受けた者が、当該資料等を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

(1) 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業

(2) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業

(3) 学術研究

(4) 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料等の貸出を受けようとする者は館外貸出許可申請書（様式3）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は前項の館外貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

4 第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項第1号、第2号および第4号のいずれかに該当する場合は料金を全額免除する。

3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書（様式5）寄託申込書（様式6）に記入のうえ、館長に提出するものとする。

2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して当該資料の受領証（様式7）・受託証（様式8）を交付するものとする。

4 館長は寄託を受けた資料等について十分な注意をもって保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附 則

1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。

2 この細則は平成14年4月1日から施行する。この細則は平成15年4月1日から施行する。

(申請書様式一覧)

様式1：館内利用許可申請書

様式2：館内利用許可書

様式3：館外貸出許可申請書

様式4：館外貸出許可書

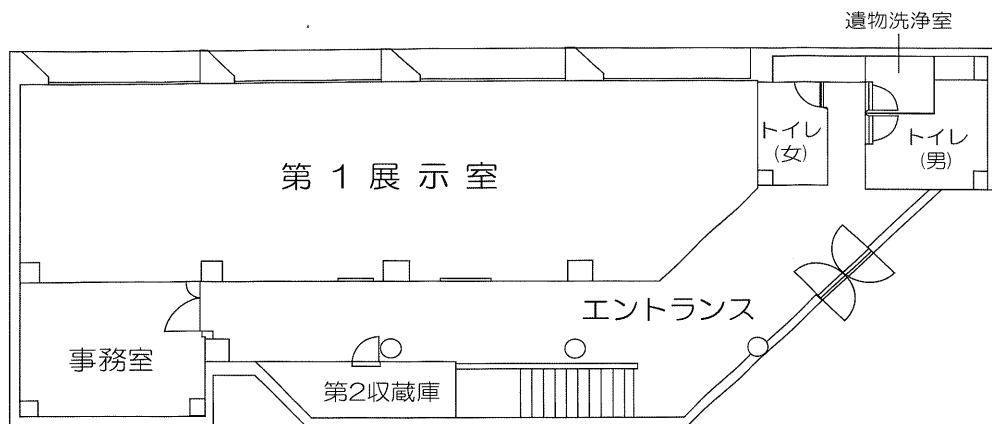
様式5：博物館資料寄贈申請書

様式6：博物館資料寄託申請書

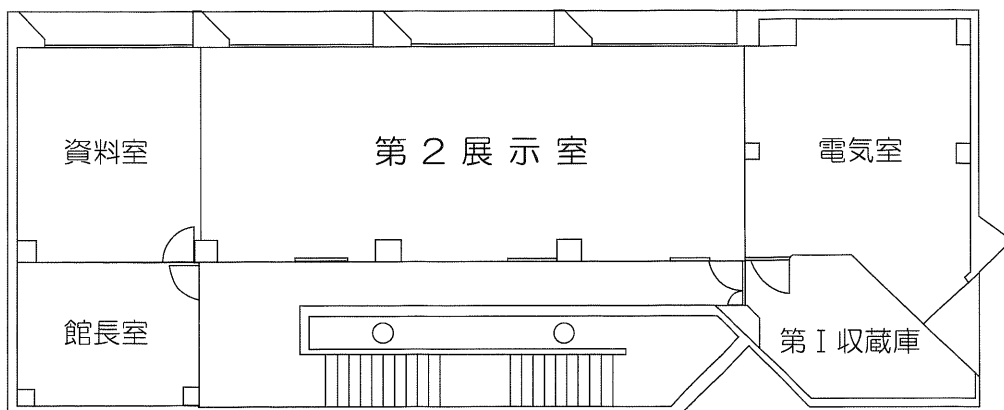
様式7：博物館資料受領証

様式8：博物館資料受託証

様式9：博物館資料借用書



1階 平面図



2階 平面図

- 建物
所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
建築面積・・・376.8㎡
構造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

●各室面積一覧

(1階)

第1展示室	93.88㎡
事務室	17.10㎡
第2収蔵庫	3.22㎡
トイレ	11.01㎡
遺物洗浄室	2.26㎡
エントランス	45.64㎡

(2階)

第2展示室	71.22㎡
館長室	16.98㎡
資料室	23.89㎡
第1収蔵庫	12.30㎡
電気室	39.00㎡

●各室仕様

(第1展示室・事務室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(第2展示室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ミネラートン

(館長室・資料室)

床	タイルカーペット敷
壁	ビニールクロス貼り
天井	ジプトーン

●電気設備

変電設備	6.6KV
変圧器設備	電灯 100KVA 動力 80KVA
照明設備	展示室ハロゲンランプ使用 館長室・事務室・資料室蛍光灯使用

●防犯・防災設備

防犯設備	各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV設備	CCDカメラ4台、展示室等監視
自動火災報知設備	P型1級5回線
消火設備	粉末消火器9台

●空調設備

空調機	空冷式、パッケージエアコン(個別)
-----	-------------------

●給排水設備

給水設備	市水道使用
給湯設備	貯湯式電気湯沸器

II. 事業報告

(1) 開館日数・入館者数

平成30年4月1日(日)から平成31年3月31日(日)の間、延225日開館し、総来館者数は817名であった。内訳は、一般331名、本学学生247名、本学教職員32名である。

また、以上の期間に熊谷キャンパスにおいてオープンキャンパスが5回行われた。その際の来館者数は207名である。

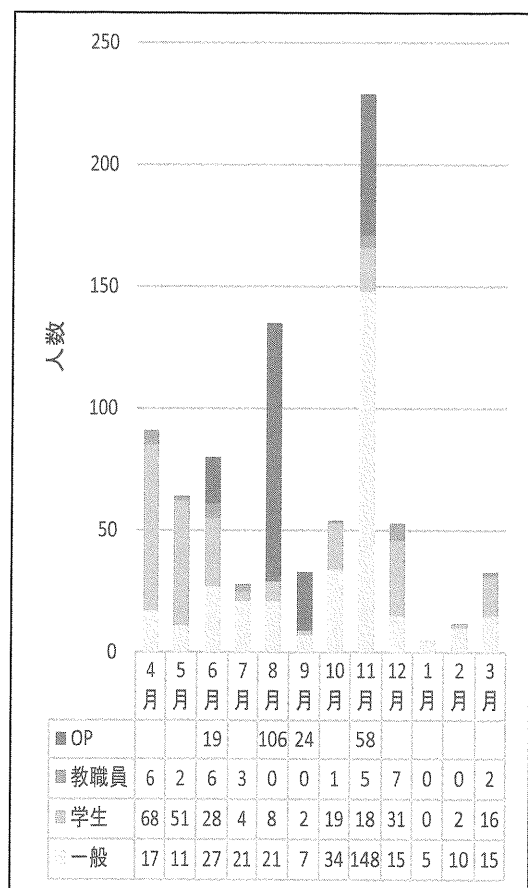


表1 平成30年度月別入館者数

(2) 出版

本年度は、以下の出版物を刊行した。

- ・『立正大学博物館年報』16号
- ・館報 万吉だより 27号・28号
- ・第13回企画展図録『沙漠に生きる－化石と石と砂－』
- ・第13回特別展図録『礫石経』
- ・基礎文献 第8輯

(3) 資料活用

当館所蔵の資料を以下の博物館等に貸出を行った。

①龍谷ミュージアム

貸出資料：ティラウラコット出土資料

貸出期間：平成30年4月21日(土)～7月5日(木)

利用目的：2018年度春季特別展「お釈迦さんワールド－ブッダになったひと－」において展示するため。

②武蔵野市立武蔵野ふるさと歴史館

貸出資料：吉田格氏関連写真資料

貸出期間：平成30年7月28日(土)～9月27日(木)

利用目的：企画展「考古学への情熱～井の頭池遺跡群調査史、はじまりは御殿山から～」において展示するため。

③上高津貝塚ふるさと歴史の広場

貸出資料：花輪台貝塚出土資料、城ノ台北貝塚出土資料、貝柄山貝塚出土資料

貸出期間：平成30年10月13日(土)～12月2日(日)

利用目的：第21回企画展「霞ヶ浦の誕生と貝塚－縄文海進期の人々の暮らし－」において展示するため。

④池上本門寺霊宝殿

貸出資料：徳治三年銘題目板碑

貸出期間：平成30年12月20日（木）～平成31年3月15日（金）

利用目的：霊宝殿特別展「大国阿闍梨日朗聖人」において展示するため。

⑤一関市博物館

貸出資料：貝取貝塚出土資料、白浜貝塚出土資料

貸出期間：平成30年12月21日（金）～平成31年3月27日（水）

利用目的：テーマ展「縄文人のセンス」にて展示するため。

⑥板橋区立郷土資料館

貸出資料：赤塚城址貝塚出土資料

貸出期間：平成31年1月9日（水）～3月28日（木）

利用目的：平成30年度企画展「再発見！いたばしの遺跡－いたばしの旧石器時代・縄文時代－」において展示するため。

(4) 展 示

1. 常設展示

－第1展示室(1F)－

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈されたアジア諸地域の梵音具を中心とする撫石庵コレクションまた、立正大学考古学研究室が1958～1980年にかけて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。これら資料は古代窯業生産の実態、土器の編年、瓦埴の供給問題についての貴重な資料として周知されている。

また、本学熊谷校地は旧石器時代から近世に至るさまざまな時代の遺跡が埋蔵されており、当館では過去40年間の発掘調査で出土した熊谷校地遺跡出土資料を展示している。

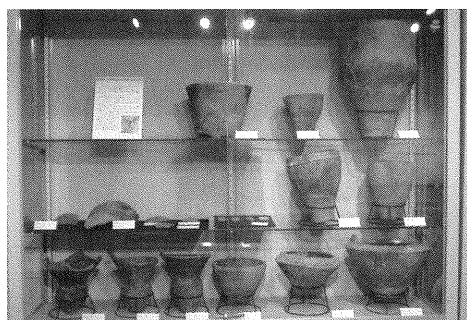
－第2展示室(2F)－

吉田格コレクション、樺太出土資料、ネパール・ティラウラコット出土資料を展示している。

吉田格コレクションは、本学専門部地歴科を卒業された吉田格氏寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。コレクションの中でも称名寺貝塚出土の土器、石器、骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。



第1展示室展示状況



第2展示室・東側展示状況



第2展示室・西側展示状況

2. 企画展示

第13回企画展

「沙漠に生きる－化石と石と砂－」

◆期間：平成30年10月29日(月)～12月17日(月)

◆内容：本展示では今年度、開設20周年を迎えた地球環境科学部のあゆみや、地球環境科学部名誉教授の高村弘毅氏が収集された沙漠関連資料を展示した。

3. 特別展示

第13回特別展

「礫石経」

◆期間

平成31年2月22日(金)～3月28日(木)

◆内容：本展示では、平成29(2017)年に山口県下関市在住の熊野譲氏よりご寄贈いただいた礫石経29点(うち1点寄託)を展示した。

4. 品川キャンパス展示

平成29年に引き続き、平成30年度も品川キャンパス9号館エントランスにて、博物館収蔵資料の紹介や、企画展・特別展の移動展を行った。

「野原古墳群」展

◆期間：平成30年5月10日(木)～9月6日(木)

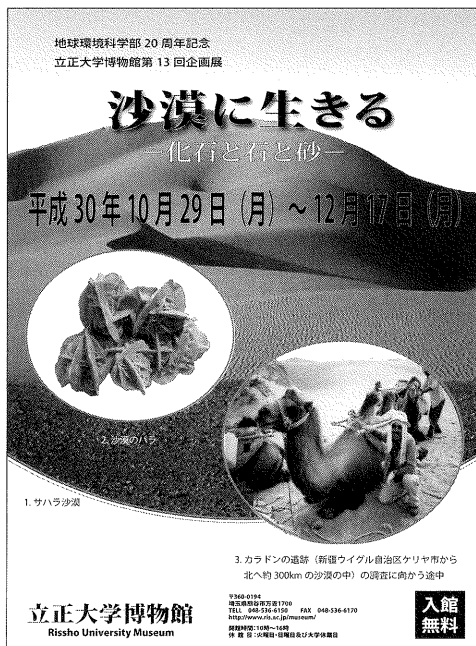
◆内容：本展示では、博物館所蔵資料紹介として野原古墳群を取り上げた。野原古墳群出土の直刀や刀子などの鉄製品や須恵器を紹介した。

「立正大学博物館所蔵の瓦」展

◆期間：平成30年9月6日(木)～12月20日(木)

◆内容：本展示では、博物館収蔵資料の瓦に焦点をあて、八坂前窯跡(埼玉県入間市)・新久窯跡(埼玉県入間市)・新沼窯跡(埼玉県鳩山町)・金山窯跡(群馬県藤岡市)の発掘調査で出土した瓦や、長熊廃寺(千葉県佐倉市)・九十九坊廃寺(千葉県君津市)採集の瓦などを展示した。

展示制作にあたっては、平成30年度博物館館務実習生と共に作製した。

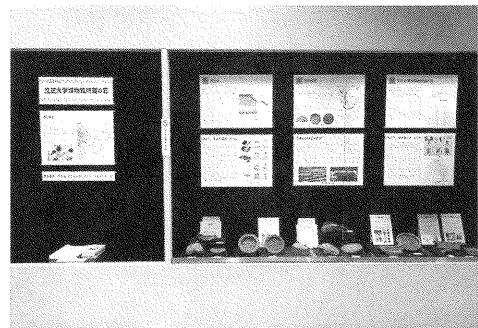


第13回企画展ポスター

第13回企画展(移動展)

「沙漠に生きる－化石と石と砂－」

◆期間：平成30年12月20日(木)～平成31年4月末日



「立正大学博物館所蔵の瓦」展の様子

(5) 教育普及

1. 博物館館務実習

平成 30 年度の博物館学芸員課程の館務実習を、熊谷キャンパス内にて延 7 日間行なった。

実習生は、文学部史学科 6 名、文学部文学科 2 名、仏教学部仏教学科 1 名の計 9 名である。

◆ 8 月 6 日 (月)

担当：井上尚明先生（立正大学非常勤講師）

資料の取り扱いと梱包について学んだ。実際に梱包材を作り、収蔵資料を梱包し、開梱する一連の作業を行った。

◆ 8 月 7 日 (火)・8 日 (水)

担当：池田奈緒子氏（当館非常勤学芸員）

品川キャンパス展の製作

◆ 8 月 9 日 (木)

担当：石山秀和先生（文学部史学科准教授）

古文書の取り扱い方や、調査方法を学び、実際に古文書と和本の調査カードを作成した。

◆ 8 月 10 日 (金)

担当：田嶋和久先生（文学部社会学科准教授）

日本刀の概要について学び、模造刀を使用し、刀剣の取り扱いと手入れの実習を行った。

◆ 8 月 11 日 (土)

担当：池田奈緒子氏（当館非常勤学芸員）

品川キャンパス展の製作

◆ 8 月 13 日 (月)

担当：北沢俊幸先生（地球環境科学部環境システム科 講師）

自然誌に関する実習を行なった。実際に熊谷キャンパス内の建造物に使用されている石材の観察を行なった。



資料の取扱いと梱包実習の様子



平成 30 年度 館務実習生

2. 土器焼成

土器焼きは例年、文学部史学科の「考古学実習 6」（4 年生対象）の一環で行われている。今年度も、平成 30 年 11 月 3 日（土）・4 日（日）の 2 日間、博物館が協力し、熊谷キャンパス敷地内において行われた。

参加者は、考古学専攻 6 名、考古学研究会会員 2 名、計 8 名で講師の竹花宏之先生の指導の下、野焼きで土器を焼成した。



完成した土器と考古学専攻生

(6) 収蔵品修復事業報告

所蔵資料のうち、脆弱で今後の保存・展示が困難なものを選び、継続的に保存処理を行っている。以下、平成 28 年度、29 年度に実施した修復事業について報告する。

1 平成 28 年度事業

対象遺物 鉄鏃 3 点 (野原 11 号墳)

委託先 ㈱東都文化財保存研究所

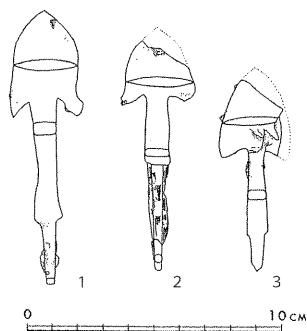
◆資料の概要

本資料を出土した野原古墳群は、埼玉県北部の熊谷市の南端、荒川の支流である和田川に南面する、標高 45 ～ 50 m の江南台地に位置する古墳時代後期の群集墳である。20 基以上が存在し、昭和 39 年に立正大学考古学研究室によって 8 基の円墳が発掘調査されている。

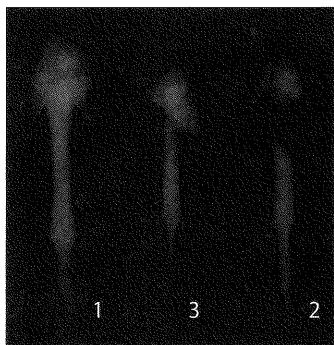
修復した 3 点の鉄鏃は、11 号墳の石室から出土した。いずれも腸挟有茎平根式で、その特徴から 7 世紀半ばの時期と考えられる。

◆保存処理の工程

- ①事前調査：現状確認、写真撮影、エックス線撮影。表面がさびで覆われ、赤茶けた状態であった。
- ②クリーニング：精密機器を用いて表面の錆を慎重に除去した。
- ③脱塩処理：遺物中の塩化イオン等の陰イオンを洗浄するため、オートクレーヴ装置により高圧力をかけ、脱塩処理を行った。
- ④樹脂含浸：遺物を強化するため、アクリル樹脂を減圧含浸した。
- ⑤接合・樹脂充填・復元・彩色：鉄鏃が破断している部分を接合し、亀裂や接合部に合成樹脂を充填して補強した。充填箇所は顔料およびアクリル樹脂エマルジョンを用いて補彩を行った。
- ⑥経時変化調査：処理終了後、一定期間変化の有無を確認した。
- ⑦処理後調査：遺物の状況を確認し、写真撮影、保存処理記録を作成した。



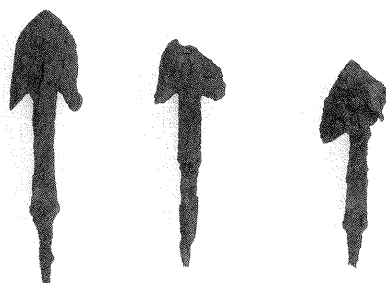
実測図



エックス線写真



修復前



修復後

2 平成 29 年度事業

対象遺物 鉢形土器 (称名寺B貝塚)

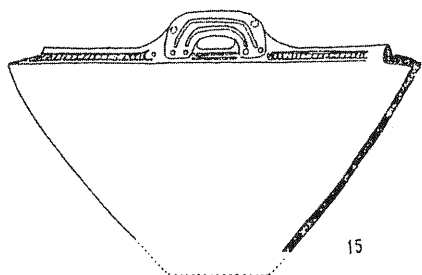
(吉田格コレクション)

委託先 (株)東都文化財保存研究所

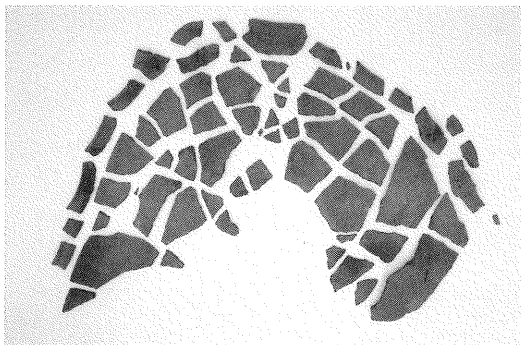
◆資料の概要

称名寺貝塚は、神奈川県横浜市金沢区、東京湾を東に望む低台地上に位置する縄文時代後期の貝塚である。昭和 26 年、昭和 32 年、昭和 41 年に吉田格氏を中心に発掘調査が実施された。吉田氏は、出土した J 字文や S 字文の渦巻き紋を特徴とする土器を「称名寺式土器」として設定し、遺跡は標識遺跡となっている。

修復した土器は、称名寺Ⅱ式の鉢形土器で、称名寺B貝塚から出土している。底が小さく、口縁が大きく、逆「ハ」の字状に開く。口縁を内側に折り曲げ、対に取手状の耳を持つ。口縁部に渦巻き文を配する。年代は、縄文時代後期初頭 (B.C. 2, 500 年頃) である。



実測図 (器高: 28cm)



解体した状況

◆保存修復の工程

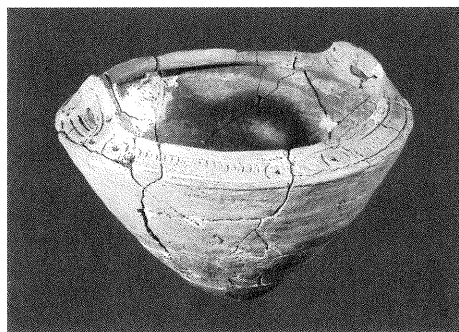
①事前調査: 保存状況を確認し、現況の写真撮影、記録を行った。土器は接合部や復元石膏が劣化し、脆弱な状態であった。

②解体・保存処理・クリーニング: 接着剤や石膏で接合されている部分を、有機溶剤を用いて解体し、破片の接着剤等による汚れを有機溶剤で除去した。

③復元作業: 接点のある破断資料は、アクリル系樹脂により接合し、欠損部分はエポキシ系樹脂により復元した。

④彩色: 接合・復元部分は、顔料 (岩絵具)、アクリル樹脂エマルジョン等を用いて古色付けを行った。

⑤修理後調査: 修理状況を確認し、写真撮影、修理記録を作成した。



修復前



修復後

Ⅲ．受贈図書目録

(2018 年 4 月～2019 年 3 月)

〈青森県〉

青森県環境生活部

- ・青森県史 通史編 I

青森市教育委員会

- ・青森市埋蔵文化財調査報告書 野尻 (4) 遺跡発掘調査報告書Ⅱ 第 123 集

つがる市教育委員会

- ・市内遺跡発掘調査報告書

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

- ・研究紀要 第 7 号
- ・是川縄文館年報 第 7 号
- ・八戸市文化財調査報告書第 159 集 櫛引遺跡第 5 地点
- ・八戸市文化財調査報告書第 160 集 熊野堂遺跡第 6 地点
- ・八戸市文化財調査報告書第 161 集 下水道整備工事に伴う発掘調査報告書 4
- ・八戸市文化財調査報告書第 162 集 松ヶ崎遺跡第 18 地点・田面木遺跡第 48 地点
- ・八戸市文化財調査報告書第 163 集 林ノ前遺跡 IX
- ・八戸市文化財調査報告書第 164 集 史跡是川石器時代遺跡発掘調査報告書Ⅱ
- ・八戸市文化財調査報告書第 165 集 八戸市内遺跡発掘調査報告書 38
- ・平成 30 年度特別展図録「海をわたる縄文人～津軽海峡文化圏の縄文～」
- ・平成 30 年度秋季企画展図録「どうぶつと縄文人」
- ・掘り day はちのへー八戸市埋蔵文化財ニュース第 21 号

〈岩手県〉

一関市博物館

- ・「縄文人のセンス－貝鳥貝塚の出土品－」

〈宮城県〉

東北学院大学博物館

- ・平成 28 年度 (2016) 東北学院大学博物館年報 Vol.8

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

- ・東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館年報 9 2017

〈福島県〉

公益財団法人福島県文化振興財団 福島県文化財センター白川館

- ・福島県文化財センター白川館 研究紀要 2017

〈茨城県〉

土浦市立博物館

- ・「花火と土浦－祈る心・競う技－」
- ・土浦市立博物館年報 第 30 号
- ・土浦市立博物館紀要 第 28 号

土浦市民ギャラリー

- ・「茨城県近代美術館 移動美術館－茨城ゆかりの洋画家たち－」
- ・「土浦市民俗調査報告書第二集 藤沢・斗利出の民俗－桜川左岸の低地・台地の環境と暮らし－」

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

- ・「霞ヶ浦の誕生と貝塚－縄文海進期の人びとの暮らし－」

〈栃木県〉

大田原市なす風土記の丘湯津上資料館

- ・那須の歴史をひもとくⅣ「那須のくろがね－集落の開発と鉄生産－」

〈群馬県〉

吉岡町教育委員会

- ・吉岡町文化財調査報告書 七日市遺跡Ⅱ

高崎市観音塚考古資料館

- ・第 30 回企画展図録「古墳時代群馬の渡来文化～観音塚古墳の被葬者像を探る～」
- ・平成 30 年度高崎市観音塚考古資料館ミニ企画展リーフレット「昔を語る多胡の古墳－多胡郡建郡の背景を考える－」

かみつけの里博物館

- ・「小さな石のものがたり」

安中市学習の森ふるさと学習館

- ・「安中のやきもの」

〈埼玉県〉

寄居町教育委員会

- ・寄居町文化財調査報告 寄居廃寺跡（第5次）第38集

戸田市立郷土資料館

- ・郷土博物館だより Vol. 46
- ・研究紀要 第28号 2018
- ・戸田市立郷土博物館調査報告書 収蔵文書目録(2) 第10集

久喜市教育委員会

- ・「歴史資料でよむ久喜市ゆかりの人物ブックレット③ 内藤正成の活躍」

埼玉県立川の博物館

- ・かわはく No. 60
- ・かわはく No. 61
- ・紀要 18号
- ・平成29年度春季企画展「荒川・利根川・多摩川の石くらべ」解説書

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・紀要 第12号
- ・巡り・廻りの民俗行事調査概報Ⅱ
- ・平成30年度要覧
- ・特別展 ダムと変わる！私たちの暮らし

城西大学水田美術館

- ・城西大学水田美術館 活動報告書 創刊号 2011～2016年度
- ・江戸 子ども学びの風景展

立正大学地球環境科学部

- ・地球環境科学部20周年記念 10年の歩み-2008～2017-

春日部市教育委員会

- ・春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書 埼玉県春日部市 神明貝塚総括報告書
- ・発掘調査から分かる 3800年前の縄文人の暮らし

飯能市郷土館

- ・飯能市郷土館飯能市立博物館展示ガイドブック

蓮田市教育委員会

- ・蓮田市文化財調査報告書 57集

白岡市教育委員会

- ・白岡市埋蔵文化財調査報告書 第27集

吉見町教育委員会

- ・吉見町埋蔵文化財調査報告書 町内遺跡 12 第18集

富士見市立水子貝塚資料館

- ・「富士見市の富士山～富士見市内の塚いろいろ～」
- ・「堅穴住居の世界」

埼玉県児玉郡美里町遺跡調査会

- ・美里町遺跡調査会報告書「中耕地遺跡」第13集

朝霞市博物館

- ・朝霞市博物館研究紀要 第16号
- ・朝霞市博物館利用事業資料集Ⅱ
- ・テーマ展示「家紋になった動植物」
- ・第33回企画展 「朝霞町へ行楽に ゴルフ場があったころ」

鉄道博物館

- ・明治150周年記念 NIPPON 鉄道の夜明け
- ・貨物ステーション 貨物のヒ・ミ・ツ

埼玉県立自然の博物館

- ・特別展「秩父鉱山～140種の鉱物のきらめき～」展示解説書
- ・平成30年度特別展「ハチを知る」
- ・平成30年度特別展「カモ・鴨～見・知・獲・食～」
- ・埼玉県立自然の博物館研究報告 第12号

埼玉県教育委員会

- ・埋文さいたま

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・館報 第37号

川越市立博物館

- ・小杉権次郎氏収集文書・旧鍛冶町名主北野家文書目録
- ・川越市立博物館第28回収藏品展「戦中・戦後の川越の歩み」
- ・川越とサツマイモ

飯能市郷土館

- ・飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール 第14号
- ・飯能市郷土館収蔵資料目録8（収蔵文書目録その3）武蔵国秩父郡南村岡部家・北村浅海公介文書目録 第14号

行田市郷土博物館

- ・第31回企画展「阿部正武と徳川綱吉」展示解説図録

- ・行田市郷土博物館研究報告 第9集
- ・第28回テーマ展「酒とくらす」展示解説図録
- ・第32回企画展「鷹狩りと忍城」展示解説図録

さいたま文学館

- ・「田山花袋と明治の文学」
- ・詩人・吉野弘 やさしいまなざし

寄居町遺跡調査会

- ・寄居町遺跡調査会報告 掘込遺跡（第2次） 第39集

日本工業大学工業技術博物館

- ・工業技術博物館ニュース 開館30周年記念号
- ・日本工業大学 工業技術博物館収蔵受賞機種一覧

埼玉考古学会

- ・熊谷市（旧大里町）円山遺跡出土の久ヶ原式土器の評価－久ヶ原式土器出土の北限地の視点から－

春日部市郷土資料館

- ・「ここまで分かった神明貝塚と縄文人のくらし」

川口市立科学館

- ・年報 平成29年度

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・紀要 第11号
- ・平成30年度企画展「埼玉の古墳3」

熊谷市教育委員会

- ・「西別府廃寺Ⅳ」
- ・「北廓遺跡Ⅱ」
- ・「前中西遺跡Ⅻ」
- ・「大竹遺跡Ⅰ」

加須市教育委員会

- ・加須市埋蔵文化財調査報告書 騎西城武家屋敷 第11集

さいたま市立博物館

- ・平成29年度さいたま市立博物館年報

サトエ記念美術博物館

- ・藤井勉展～家族の肖像・画家への追想～

公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・公益財団法人埋蔵文化財長事業団年報37 平成28年度版

久喜市郷土資料館

- ・第9回特別展「祈りと願い 彩る獅子－久喜市の獅子舞－」展

宮代町郷土資料館

- ・平成30年度特別展「明治時代のみやしろ」

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・開館30周年記念特別展 大地に生きる

神川町教育委員会

- ・神川町埋蔵文化財調査報告第12集「南塚原71・59号墳 皂樹原遺跡」
- ・神川町埋蔵文化財調査報告第13集「幹沢遺跡 坊地遺跡 鍛冶ヶ谷遺跡 門野遺跡 松の平遺跡A地点」
- ・神川町文化財マップ

草加市立歴史民俗資料館

- ・平成29年度 草加市立歴史民俗資料館 年報

埼玉県平和資料館

- ・童謡その心～子どもたちの謡い～

飯能市立博物館

- ・吾野～未来へつなぐ地域の記録～

毛呂山町歴史民俗資料館

- ・第12回特別展図録「山・寺・ほとけ～毛呂山の仏教文化と修験～」
- ・毛呂山町町内遺跡発掘調査報告書（10）

〈千葉県〉

市立市川考古博物館

- ・市立市川考古博物館 館報 第45号

旭市教育委員会

- ・史跡大原幽学遺跡 旧宅、墓及び耕地地割 保存活用計画書

千葉県博図公連携事業実行委員会

- ・きのこの教え

袖ヶ浦市郷土博物館

- ・平成29年度企画展Ⅰ「石とのかかわり－石器から石造物まで－」
- ・平成29年度企画展Ⅱ「きのこの住人・きのこむし－きのここと虫たちの不思議なくらし－」
- ・平成29年度特別展「山野貝塚のヒミツを探る」展示解説書

千葉県立関宿城博物館

- ・文明開化の力－わたしたち、江戸時代を卒業します－

〈東京都〉

公益財団法人 日本博物館協会

- ・博物館における多言語化対応の現状と課題
- ・大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト
安定化処理（2018 増補版）
- ・博物館研究 Vol.53 No.4
- ・博物館研究 Vol.53 No.5
- ・博物館研究 Vol.53 No.6
- ・博物館研究 Vol.53 No.7
- ・博物館研究 Vol.53 No.8
- ・博物館研究 Vol.53 No.9
- ・博物館研究 Vol.53 No.10
- ・博物館研究 Vol.53 No.11
- ・博物館研究 Vol.53 No.12
- ・博物館研究 Vol.54 No.1
- ・博物館研究 Vol.54 No.2
- ・博物館研究 Vol.54 No.3

杉並区立郷土博物館

- ・杉並区立郷土博物館だより 炉辺閑話
- ・杉並区立郷土博物館研究紀要 第25号

実践女子大学香雪記念資料館

- ・実践女子大学香雪記念資料館館報

国分寺市教育委員会

- ・国分寺市史料集 6
- ・住田古瓦コレクションの世界

國學院大學博物館

- ・國學院大學博物館研究報告

玉川大学教育博物館

- ・紀要 第15号
- ・館報 第16号
- ・博物館ニュース SHU No.50
- ・博物館ニュース SHU No.51

公益財団法人渋沢栄一記念財団

- ・青淵 第830号
- ・青淵 第831号
- ・青淵 第832号
- ・青淵 第833号
- ・青淵 第834号
- ・青淵 第835号
- ・青淵 第836号
- ・青淵 第837号
- ・青淵 第838号

- ・青淵 第839号
- ・青淵 第840号

一般財団法人 全国科学博物館振興財団

- ・milsil No.63
- ・milsil No.64
- ・milsil No.65
- ・milsil No.66
- ・milsil No.67

立正大学経営学会

- ・立正大学経営論集 第49巻第2号
- ・立正大学経営論集 立正大学経営学部創設50周年記念 第50巻第1・2合併号

立正大学経営学部

- ・立正大学経営学部50周年記念誌

井草文化財研究所

- ・井草遺跡－縄文時代早期の標式遺跡－

東京家政学院 生活文化博物館

- ・東京家政学院 生活文化博物館年報
- ・きもの、乙女たちのハレ姿

東日本鉄道文化財団 鉄道博物館

- ・年次報告書 2017

東京考古談話会

- ・中世荏原郡における地頭等の居館と板碑－荏原郡大森郷周辺を例として－

武蔵野ふるさと歴史館

- ・第2回企画展 考古学への情熱

公益財団法人日本文化財保護協会

- ・紀要 第2号

板橋区立郷土資料館

- ・平成17年度特別展 夢を掘った少年たち－小茂根・稲荷台・志村・小豆沢・西台の遺跡－
- ・平成29年度特別展 水のゆくえ～荒川の歴史～
- ・再発見！いたばしの遺跡－いたばしの旧石器時代・縄文時代－

帝京大学総合博物館

- ・帝京大学総合博物館企画展 帝京大学医真菌研究センター創設35周年記念「カビ展－医真菌学研究への誘い－」
- ・帝京大学総合博物館 館報 創刊号 2015・2016（平成27・28）年度

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・駒澤大学禅文化歴史博物館 紀要 第2号

学習院大学学芸員課程

- ・学芸員 2018 No. 22

渋沢資料館

- ・渋沢研究 第31号

〈神奈川県〉

横浜市歴史博物館

- ・News No. 43
- ・News 特集号 No. 44

大磯町郷土資料館

- ・年報 平成28年度
- ・資料館だより 第38号
- ・資料館資料17 ワークショップ「海の森クラブ」の活動報告
- ・図録「明治の功労者－湘南社の活動と近代地方行政－」
- ・大磯町郷土資料館建物概要
- ・旧吉田邸建物概要

女子美術大学美術館

- ・女子美術大学美術館年報 第15号

〈新潟県〉

長岡市立科学博物館

- ・長岡市立科学博物館館報（NKH） 第102号

新発田市教育委員会

- ・新発田市埋蔵文化財調査報告書 第57号
- ・山草荷遺跡出土の弥生土器

〈長野県〉

明治大学黒曜石研究センター

- ・明治大学黒曜石研究センター資料報告書4 更新世紀末期のアムール川下流域における環境変動と人類 Vol. 3
- ・資源環境と人類 第8号

〈静岡県〉

東海大学海洋学部博物館

- ・東海大学海洋学部博物館年報
- ・東海大学博物館だより 海の博物館

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・南山大学人類学博物館紀要 第37号

〈滋賀県〉

高島市教育委員会

- ・高島市内調査報告書 ー平成29年度ー
- ・滋賀県高島市新旭町下花貝遺跡調査報告書－高島市役所本庁舎増築工事に伴う発掘調査－

〈大阪府〉

茨木市文化財資料館

- ・茨木市立文化財資料館 館報 第3号（平成28年度）
- ・市制70周年記念 茨木市立文化財資料館テーマ展図録「総持寺」

〈京都府〉

龍谷大学龍谷ミュージアム

- ・お釈迦さんワールド プッタになったひと

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館

- ・図録「ポスターでたどる戦前の新劇」
- ・美術と文芸－関西学院が生んだ作家たち－

〈鳥取県〉

鳥取市歴史博物館

- ・鳥取県立博物館研究報告 第55号

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成25年度－
- ・山口大学埋蔵文化財資料館通信 第28号

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・高知県立歴史民俗資料館年報 No. 27

〈福岡県〉

筑紫野市歴史博物館

- ・ふるさと館ちくしの 筑紫野市歴史博物館 年報
18 (平成 28 年度)

筑紫野市教育委員会

- ・前畑遺跡第 13 次発掘調査 土塁状遺構発掘調査
概報 筑紫野市文化財調査報告書 第 116 集
- ・原田地区遺跡群 4－原田駅前土地区画整理事業地
内埋蔵文化財調査報告 6－筑紫野市文化財調査報
告書 第 114 集
- ・西鉄筑紫駅列車銃撃事件の記録 筑紫野市文化財
調査報告書 第 115 集

九州産業大学美術館

- ・平成 29 (2017) 年度文化庁「地域の核となる美
術館・歴史博物館支援事業」実施報告書

西南学院大学博物館

- ・企画展図録「東方キリスト教との出会い－祈りと
かたちとその拡がり－」
- ・特別展図録「キリシタン－日本とキリスト教の
469 年－」
- ・西南学院大学博物館紀要 第 6 号
- ・博物館ニュース vol. 34
- ・博物館ニュース vol. 35

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・鹿児島大学総合研究博物館年報 No. 16
- ・News Letter No. 41
- ・News Letter No. 42

立正大学博物館年報 17

(平成 30 〈2018〉 年度)

平成 31 (2019) 年 4 月 30 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉 1700

TEL. 048 - 536 - 6150 FAX. 048 - 536 - 6170

E - mail : museum@ris.ac.jp

URL <http://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本；望月印刷株式会社